早春の野山で出会って春を実感できるチョウが何種類かあるが、ぽかぽか陽気の里山でコツバメに出会えると「春だなあ」と感無量となる。近隣で春だけしか見られないチョウは何かと聞かれた場合、ギフチョウやツマキチョウがすぐ浮かぶ名前だが、どっこいこのコツバメを忘れてはならない。姿形がとても小さく色もきわめて地味で、早春の山道では路傍の小枝や葉っぱの先にちょこんととまり、人の気配に驚くと鋭敏に跳ねとんですぐに別の枝葉の先端などにとまるのだが、その飛翔時はまるでハエがとんでいるようにしか見えない、そんなチョウで、北海道から九州まで各地に普通に分布していて、北海道の山地では 7 月になっても新鮮個体がみられるという。チョウを知らない人がワラビなどの山菜採りに山に入るとき必ず出会っているはずなのに、おそらくハエが飛んでいたなとしか認識していないと思われる。早春の里山に点在するアセビの白い花や, ツツジの花群間を敏速に飛び交うこのコツバメに, あるいは早春の山道を歩いているときにパッと路傍の小枝などから飛び立つ本種がチョウだと気がついた人がいれば, その人の注意力はきわめて優秀といって間違いない。

Apr.26,1993 兵庫七草山 コツバメ

コツバメは静止状態で太陽光線が翅面に直角にあたるように体を傾けて日光浴をする、とても変わった、しかし実に賢い習性がある。その間、後翅だけを上下に動かすシジミチョウの仲間がよくする所作を見せるが、決して羽を広げてはくれないのでチョウの撮影を趣味とする人が最もストレスをためる相手だ。何度もチャレンジをして、結局は裏面の芸術模様がしっかり撮れたからいいやと諦めてしまう、実際は、しぶいブルーの翅表をもっているのに実に愛想のないチョウだといえる。ここに示す静止時の撮影記録は、裏面の芸術的な模様をしっかり捉えることができた会心の作として満足しているものだ。

コツバメの幼虫はスイカズラ科のガマズミやネジキ、およびヤマツツジ、コバノミツバツツジなどのツツジ類の花を食べて育ち、晩春には蛹となってそのまま翌春まで過ごしてチョウになるが、このパターンはギフチョウとよく似ている。2014 年の 4 月、加古川市郊外の岩山山頂部で、アセビによく似たネジキの新芽付近に次々と産卵してまわるコツバメの母チョウの記録が撮れたが、それ以降の生態観察はできていない。

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.

Apr. 21, 2018　チョウが舞う黒岩山へ

昨 2017 年は 4 月 14，22、5 月 2 日の三度通った加古川の黒岩山（標高 132m）に今年初めて登る。急峻な岩だらけの狭い登山道は、週一のテニスや日々のウォーキングを継続している身にも相当にきつい。15 分を要してたどり着いた尾根筋でネジキの新芽に産卵をして回るコツバメの動きを追って記録をとる。アゲハチョウなどが飛び交う尾根道を何度か行き来しているうちに、ふたたびコツバメが飛ぶ。先程産卵していた♀だと思われ、飛び立つたびに翅表のブルーがキラリと輝いて美しいが、その状況を記録するのは容易ではない。

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.